D 62　おむつ、おむつカバーの洗濯による吸水性、耐水性の変化

共立女大家政　○津田和代　　齊藤昌子

＜目的＞　おむつ、おむつカバーは他の衣類とくらべ、洗濯回数が著しく多く、洗濯による吸水性や耐水性への影響が大きい。本研究では、洗濯を２０回くり返し行い、おむつの吸水性、柔軟剤使用による吸水性への影響について、おむつカバーについては、通気性、はっ水性、耐水性、柔軟剤使用によるはっ水性、耐水性への影響、および残留界面活性剤量と耐水性との関係を検討した。

＜方法＞　試料には、おむつ（さらし、ドビー織、末ざらしドビー織の３種），おむつカバー（毛、綿、ポリエステル、ポリエステル・ナイロン・アクリル混紡の４種）を用いたこれらを２０回洗濯をくり返した。おむつについては、吸水性（ＪＩＳ－Ｌ－１０９６バイレック法），柔軟剤使用後の吸水性の変化などについてしらべた。おむつカバーについては、通気性（ＪＩＳ－Ｌ－１０９６フラジール試験），はっ水性（ＪＩＳ－Ｌ－１０９２スプレーテスト），耐水圧性（ＪＩＳ－Ｌ－１０９２静水圧法）を測定した。さらに，おむつカバーに残留した界面活性剤を抽出し定量（ＪＩＳ－Ｋ－３３６３アボット法）した。

＜結果＞　おむつは柔軟剤の使用により、吸水性が低下した。おむつカバーは、毛素材のものが他にくらべ通気性が大きく、洗濯前の耐水圧性がすぐれているが、洗濯を重ねる毎に耐水圧性が著しく低下した。これは、洗濯の際の界面活性剤が吸着し、残留したことによる。綿、ポリエステル、および混紡については、洗濯による変化が小さい。おむつカバーの耐水性に対する柔軟剤の影響は小さく無視できることがわかった。